

印刷振興賞受賞は思いもしないことだったので、私なんぞが頂戴していいものかと悩みましたが、ご推薦頂いた方の意を酌んで、謹んで受賞させていただきました。

昭和45年に工業高校を卒業して就職し、最初の仕事は明製作所様の平塚工場です。約2カ月間、当時は未だ無かったストックフォーム横2面掛け印刷機の製造立会でした。

初期のCTP研究委員会では、フォーム印刷は版のサイズがバラバラなのでPS版のフィルムレス化は向いてないとの見解で立ち遅れ。丁合い技術では、田代博士様と一緒に、OCR用紙に残らない接着剤を作り出し、平成元年には十條製紙様と一緒に、貼合わせた内面が発色する親展はがき用紙も、開発してきました。

また、巻取り印刷物の輸送用にアメリカ製専用パレットの導入等々、昔から社の内外で優しく「他人のものは取らない。ウソはつかない。」と言いながら、周囲の支援者と共に楽しい仕事をして来ました。

47年経過した現代のお客様は、ビジネスフォームの印刷物に付加価値を付けるべく、機能や材料など様々な開発で対応しても、なかなか今までのような評価は得られなくなりました。

フォーム印刷屋はこれから、生産設備の重複を避け、同業同士、また異業種の会社様と協業が大事になり、一緒に手を取り合って助け合わないと、生き残れないでしょう。

私は関東フォーム印刷工業会では活性化委員長もやっていますし、三郷コンピュータ印刷代表の福田学様から、樹脂凸版の技術を教わり、また将来を考えてmic代表の細川謙三様と、版下作成機構の立上げも模索しています。そして当社代表の朝日健之は、日本フォーム印刷工業連合会の支援を受け、グリーンプリンティング認定取得やISO認証取得など、「社員40人の成長とその家族の幸せ」を目指しています。

最後にこのHPの場をお借りして、長年お世話になった当社社員と他社の方々、さらに今回推薦して頂きました方に心より感謝申し上げます。

株式会社木万屋商会 相談役 浜岡光雄